

第1回 生活科研究部研修会

令和5年5月24日

会場 協同組合 浜松卸商センター アルラ

1 顧問校長挨拶

浜松市立佐藤小学校 伊藤 千恵 校長

1年生は、入学して2か月ほどが経つ。運動会に向けて練習を前向きに頑張る姿や、昇降口で保護者と離れられずに涙する姿など、子供たちのいろいろな姿が見られるようになった。

本日の研修では、入学した子供たちが学校に順応し、安心して学校生活を送っていくためにどんなことが大切かを「生活科の役割」や「授業づくり」の面から考えてほしい。



2 講話「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」

浜松市教育委員会指導課 河合 祥悟 指導主事

子供たちは、小学校入学前、幼稚園や保育所、こども園で「遊び込み」を通して様々な力を育てている。小学校入学後は「学び込み」を通して、必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等を育てていくことになる。「遊び込み」から「学び込み」に移行する際、子供たちは「環境の変化」や「生活リズムの変化」「人間関係の変化」など、様々な変化に直面する。その変化が「小1プロブレム」を生んでしまう。低学年の担任は、子供たちが小学校教育に順応し、安心して生活していくことができるように、変化をできるだけ小さくする工夫をしていくことが求められている。

そこで、本日の研修では「幼小接続」という視点から、生活科の役割について確認するとともに「子どもの思いや願いを大切にしたい生活科の授業とはどんなものか」について考え、日々の教育活動に生かしてほしい。



①生活科の役割～スタート・カリキュラムから考える～

小学校学習指導要領 生活編には「幼児期における遊びを通じた総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことと明示した」と明記されている。

「スタートカリキュラム」とは、小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園での遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムである。スタートカリキュラムを取り入れた生活科の授業を通して、子供たちは幼児教育から小学校教育に円滑に移行することができるのである。

また、生活科は、国語や算数、図画工作など、様々な他教科の力を生かすことができる。それだけでなく、理科や社会科など、中学年以降の学習につながる視点を養うことができる。生活科は、幼児期の学習からの学習をつなぐ、また、各教科をつなぐ重要な役割を担う教科である。

②生活科における見方・考え方を生かした学習過程

～子供の思いや願いを大切にしたい授業とは？～

生活科は、子供たちが「思いや願いをもつ→活動や体験をする→新しい発見から感じたり、考えたりする→表現・行動する」という学びのプロセスを意識して単元や授業を構成していくことが大切である。子供たちの「思いや願い」を引き出すためには、子供たちへの投げかけが非常に重要である。子供たちが活動に向けて「こんな風にしたい」「わくわくするな」という思いをもてるような投げかけや導入をしかけたり、単元構想を工夫したりすることが求められる。

③生活科における「深い学び」

生活科は、自分自身や自分の生活について考え、表現することにより「気付きの質」が高まる。（また、対象が意味付けられたり価値づけられたりすることで、身近な人々、社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。）

また、身近な人々、社会及び自然といった対象を意味付けたり価値づけたりすることで、それらは、自分にとって一層大切な存在になってくる。

「気付きの質」の高まりは、満足感、成就感、自信、やり甲斐、一体感などの手ごたえとなり、次の体験への安定的で持続的な意欲につながっていくことになる。生活科においては、「気付きの質」の高まりが、深い学びであると捉えることができる。このような深い学びの実現こそが求められる。